

陸上の「小さな恋の物語」 ～体協杯茨木市民陸上を終えて

今の3年生男子部員の陸上の「小さな恋の物語」がある。2年前、2010年の春、彼らは入学している。当時から部員は120名規模の部活で大阪総合優勝3回、毎年必ず誰かが全国大会に出場し、全国大会のリレーで2度、駅伝で1度、大阪府代表チームとして夢舞台に立っている。いわゆる陸上の強い学校と言われる評価があったのだが、この2010年春に陸上部に加入した1年男子部員がきわめて少なかった。シニア野球に所属する選手が4名ほどいたが、それ以外の男子部員



はたったの9名である。(当時、堤はテニス部でした。夏頃に彼は陸上部にやって来た!) 9名の内、福田と石田が中長距離パート。あとの7名。剣道をやっている、ダンスをやっている、はてはアメリカンフットボールをやっている…。毎日、陸上部の練習に参加できる選手と言えば、4～5名くらい。「いったい、陸上部はどうなるんだろう?」と、坂田先生とよく顔を見合わせたものです。

また皮肉なほど、同じ学年の女子部員の数が多く27名ほどもいたのだ。おまけに強かった。大阪総体で1年女子リレーは優勝するし、短距離、走り幅跳び、走り高跳び、長距離にも、上位入賞する顔ぶれが揃っていたのでした。いつしか、口の悪い顧問に「絶〇危惧種」と呼ばれ、しかも「はい」と返事してしまう始末? ひとつ上の先輩はリレーも強かった。思いっきり逆風である。そんな中、高須賀と藤井が生徒会へ。ますます未来が危うくなった。

去年の秋に新チームが発足した。キャプテンは松尾になった。失礼ながら決して競技力の高い選手ではなかったが、「チームをまとめよう」とする気持ちは誰よりも強く、チームのためにいつも献身的な姿を見せた。その松尾の動きにつられるようにまわりの「危〇種」も、とってまたくましくなった。夏を超えてさらに成長し、競技力もかなりレベルアップしたのである。「自称!?短距離のエース」の堤は、いつしか大阪ファイナリストの常連に。松尾も四種競技の選手としていろいろな種目を起用にこなすようにまで成長した。円盤投げの高須賀も重さが1kgから1.5kgに変わったにもかかわらず、30m越えもあとわずかに迫る力を身につけ、さらには共通リレーの第1走者もつとめる。藤井や掛川も跳躍専門であるにもかかわらず、リレメンとして確かなバトンワークを身につけるとともに、さらには走力にも一段と磨きがかかっている。辰見も金川も走り高跳びだけでなく、ハードルも器用にこなすオールラウンドプレーヤーに成長した。今回の体協杯茨木市民陸上では、金川は大車輪の活躍で、走り高跳び優勝、三段跳び2位、走り幅跳び3位、110mYH3位という素晴らしい結果を残している。



3年男子部員がどんどん陸上競技にはまってきたのだ。正しい接地の技術を身につけ、体幹を鍛え上げたことにより、どんな種目にも対応できるようになっている。はじめは見向きもしてくれなかった片思いの陸上だけど、恋する心(陸上が好きでがんばろうとする力)は強く、今や陸上の神様の方が歓迎してくれているように見える。こないだ、アメフト野郎は11月の東大阪記録会にも出場したいと口走るのだから、恋の力は摩訶不思議なものである。



ぜひ、高校に行っても陸上競技を続けてください。中学時代は近畿や全国大会には行けなかったけど、高校でその夢の実現を目指す十分な可能性があることを伝えたい。

もう、恋ではなく、愛になるのでしょうか。高校に行ってから彼らの「ある愛の詩」に今から注目している。



心というのは、難しいことへの挑戦ではなく、今できることの継続で強くなるものです!